富山県図書館を考える会会報№.４９

司書のいる学校図書館の風景

学校図書館の様子を学校司書が伝えてくれました。

今回は　魚津市　からの便りです。

先生みたいな司書になりたい

学校司書として勤め始めた最初の勤務校３年目の時。読書好きなある女の子が、私の勤務日には必ず図書室に顔を見せてくれるようになっていた。本の貸出はお昼休みだけなのだが、大休憩にも友達とやってくる。

大休憩の私は、その時々によっていろんな仕事をしていた。それをいつも興味深そうに見て、手伝ってくれるようになった。本の整理、しおり作り、図書室の掲示、テーマ展示などなど。どの仕事も楽しいと言う。

そして「私も来年は図書委員になろうかな」、さらに「将来、先生みたいな司書になりたいな♪」そう言ってくれた。私は嬉しくなった。「なれるよ！がんばって」ありきたりではあるが、言葉をかけた。しかし、、、。今の魚津市の学校司書の現状を考えると、手放しでは喜べないし、勧めることはできないと思った。当時の私は、２校兼務。１校には週２日しか行けない。

少しでも本好きを増やし、読書に抵抗を持つ子を少なくする読書支援やレファレンスなどの学習支援のお手伝いをするには時間が足りなさすぎる。勤務形態もパートで、若い人には勧めれない。

学校司書が配置され、子どもたちに認知されてきた。そして、読書好きな子には、司書になりたいと思う子どもたちも増えてきたように思う。そんな子どもたちの夢を壊さないためにも、学校には司書が必要だと認められるように、今の私たちが頑張らなければいけないと感じた。　（みーよん）

活用できる憩いの場をめざして

この４月から中学校の司書になりました。中学校は初めてで、戸惑うことばかりです。

１学期が終わり、ようやく生徒にも、学校にも、先生方にも慣れてきたところです。蔵書を見ただけでは、この学校の生徒さんたちの読書傾向や好みはわかりませんでした。昼休みや放課後に図書委員さんや本好きの生徒さんたちと話し、彼らの希望に沿ったもの、今世間で人気のあるもの話題になっているもの、それとは違ったタイプのものを選ぶよう心がけています。生徒の多くは同じ作者や、シリーズものに偏りがちのようなので、少しずつ幅を広げてほしいと思います。

また、今後は先生方にももっと図書館を利用してもらえるよう、先生向けに蔵書の紹介をしていくつもりです。学習用図書のリクエストはあっても利用されていなかったり、違う教科で使えそうなものもあります。英語と日本語が併記されている環境や歴史の本、危機管理に関する本、珍しい寄贈本‥等。

リラックスでき、且つ活発な読書活動の見られる図書室にしていきたいと思っています。

Name：(T>K)

子どもの知りたい思いを大切に

司書の仕事を始めて〇年、授業に使う本を揃えたり、読み聞かせやブックトーク、放送での本クイズなど本に親しむ機会を工夫したり等々、司書の仕事は基本が「人に喜んでもらう」ことなので、本当にやりがいがあります。

その中でも図書室で子どもたちと直に話をするのは格別の楽しみです。「先生、ドジョウの本ある？」と一年生の男の子。「へえ、ドジョウ？」「うちで飼っとるん。本あったらよみたいがー」とキラキラの目で話

してくれます。ちゃんと 4 類の棚の前で待っていたので、よしよしと思いながら「じゃあ探してみようか。ドジョウって何の仲間かな？」と声かけしてみると「うーん」とわからなさそう。「じゃ、ドジョウはどんな所にいるかな？」「あ、水の中だ！」と棚サインの《水の生きもの》にたどりつきました。

図鑑を手にとって索引から探してみることや、背表紙に「ドジョウ」が無くても「川のいきもの」に載っているね、等話しながら、無事本を探し出し、「これが読みたかったんだよ！」と嬉しそうに借りていってくれました。

授業で図鑑や百科事典の使い方を学ぶようにはなってきていますが、まだまだ日々図書室で「知りたいことをちょっと開いて調べてみる」までには至っていません。子ども自身が意識していなくても、知りたい気持ちは必ず誰にでもあるのではないでしょうか。子どもたちが自分の力でこの「嬉しさ」を積み上げていけるように、司書として出来ることをやっていきたいと思っています。　（サンダーバード）

良いことは積極的に見習う

小規模校を２校兼務しています。どちらの小学校も、初めて会った司書の私によく声をかけてくれます。「先生、おすすめの本は何？」と聞いてくる子、反対に「この本のシリーズ大好きで全部読んだよ」と私におしえてくれる子たちと、図書の情報交換をしています。

調べ学習では、わずかな休み時間に「天狗の絵はないか」「カエルのえさを知りたい」とかけ込んできて、みんなで一緒に探します。先生や司書まかせにせず、自ら本を手にとり、探す・調べる姿はとても感心しています。図書室にある蔵書数では、なかなかテーマにあった本がなく、せっかくあっても情報が古かったりして四苦八苦することもありますが、市立図書館も利用しつつ仕事を進めています。

また、２校兼務することで、その学校の良い点を互いの学校に生かして改善へもつなげていけたらと思っています。　（司書３年目）

待っていてくれる人のいる場所

７年前、魚津市の全小中学校に司書を配置することになり、私は初めてこの学校の門をくぐった。“中学生と何を話したら良いんだろう・・・。生徒たちは私を受け入れてくれるのかな？”と、不安で胸がいっぱいの中、図書室のドアを開けた日のことを今でも鮮明に覚えている。　図書室の本は、とても綺麗に並べられてあった。でも、室内は生気が感じられず、なぜか死んだ街のようだった。

そして昼休みになって自分の感じた意味がわかった。訪れる生徒は、おとなしい男の子たちが１０人程。どの子も一人でやってきて、マンガを手に取る、行儀よく座り静かに読む。チャイムがなると黙ってマンガを返して去ってゆく。本を借りる子といえば、やはり男の子が２，３人で、一人でずっと本棚の前をうろうろして、チャイム直前に借りて出てゆく。本がほとんど動かないのだ。本が綺麗なのは当然である。

あれから７年。私は今も週２日、この学校に通い続けているが、図書室の雰囲気は随分と変わった。まず私は、図書委員と仲良くなることから始めた。本の話題に限らず、友だちの話や自分のこと、何でも聞いてあげた。元々本好きが多い図書委員である。心が打ち解けると、すすめた本を借りていってくれる。もちろん読んできて感想を聞かせてくれて、「他におすすめは？」と聞いてくるのである。

こうやってすこしづつ常連さんが増えてゆき、そのうち私の周りには、たくさんの生徒が集まるようになってきた。また、全学校に司書が入ったことによって、小学校で読書の楽しさを学んだ生徒が年々多く入ってくるようになった。今まで読書経験のなかった人が、中学でいきなり読書家になるなんてことは稀である。小学校での充実した読書指導があってこそ、中学校へ来ても継続されるのである。

昨年学校が新築され、明るく綺麗になった図書室は今では学年、男女問わず毎日たくさんの利用者であふれ、とても賑わっている。「おとなしい男の子たちばかりの暗い図書室時代」があったなんて信じられないくらいだ(笑)。

図書館は、自分で欲しい本を選んで借りる場所。一般の図書館ならそうかもしれないが、学校の図書館は違う。自分の来館を笑顔で迎えてくれる人(司書)がいて、コミュニケーションをとりながら、読書を通じて心を育てる場所。そうあるべきだと私は思っている。　（たまきいづむ）

わたしの小学校・図書室でのある１日

出勤してまず、職員室で今日の学校行事の確認。（行事により図書室が使用されたりするので、2 校兼務で物覚えの良くない私には不可欠です。基本魚津市においては、平均２校兼務で１校あたり週 12 時間の体制で司書が配置されています。）

その後、図書室のドアと窓を開け図書室にて**実務である本の受け入れ作業とレファレンスの対応の本のチェック・リスト作成**等をすすめる。2 時間目終了の大休憩、開館。お子様たちは、**開くのを待ってました**とばかりにやって来てくれる。本をカウンターに返しに来た子に**感想をたずねたり、まだ慣れない１年生に本の場所を教えたり、代本板が見つけられないと探したり**で終了。3 時間目は作業中に 2～3 人の 5 年生が、源氏物語と平家物語のことを調べにやって来たので、どんなことを知りたいのか具体的に聞いて**一緒に本を探す**。4 時間目も受け入れ作業中、新しい本を並べるためのスペースや本のチェック、修理を含め廃棄の候補の本の選書が気になって来た。

給食後、昼休みの貸出。近頃本の受け入れのために**読み聞かせ**が実施出来ていないかったので、来週は読もうと思っていることを図書委員の当番に伝える。ところが、反対に学校行事で当番の不在の可能性を伝えられてしまった。掃除の時間、図書室担当の 2 年生と一緒に掃除。

この学校では、1 日 4 時間勤務のため本来なら職員室に戻って入力作業などをして、午後 2 時で勤務終了です。しかし、今日もまだ担当の図書主任の先生と顔を合わせていないことや次回以降の勤務予定を考えると区切の良いところまで終わらせようと思い結局、勤務延長。3 時過ぎに職員室に戻り、主任への連絡ノートに作業報告と次回勤務予定・今後の日程確認を記入して勤務終了。

以前、他の司書の方も書いていらしゃっいましたが、図書室で子供たちと交わす「また、来たよ。」「何か面白い本ない。」などの何気ない言葉を仕事の糧に勤務しています。

ただ先生方の忙しさを目の当たりにして、図書主任の先生に図書室の運営に時間を取っていただくことの難しさや司書の勤務形態に不安を感じつつ・・・。　（ミジュクモノ）

毎日行きたい

調べ学習に重点が置かれ、総合学習の時間が設けられるようになって１０年あまり、学校図書館に寄せられる質問もますます多様になってきました。先生方からの問い合わせは比較的想定内ですが、子ども達の質問は時には多岐にわたります。

「足がしびれるのはなぜ？」「黒豆の育て方は？」「郷土（しかも校区）の偉人の本はありますか？」「昔の教科書は？」等々。一般向けの本なら様々あるでしょう。でも小学校の学校図書館司書はまず、その学年、時にはその児童が理解できる内容の本を提供することを心がけます。黒豆って思ったら子どもは黒豆にこだわります。黒豆の本がなければ大豆の本ではだめなのか？調べながら話し合っていきます。昔の教科書と言っても小学生にとっては昭和も昔です。質問する時はいつの時代か、はっきり伝えるように言います。場合によっては市立図書館に行き探します。私自身が「あっ、この本だ！」と思った時、本を渡した時に子どもが納得してパッと顔が輝く時、充実感と子どもとの連帯を感じます。

常連の子どもの何人かは「先生、おすすめの本は？」と必ず聞いてきます。「この本、もう読んだっけ？今日はこれにする？」と本を選び、後日、「どうだった？」「うん、面白かった。」「良かったね。」「同じシリーズある？」と同じ読書好きになって話がはずむ時はとても楽しいです。

私は二校兼務で隔日しかいません。休み時間に子ども達が図書室に入って来て「やったァ！今日、先生いた！」と言ってくれた時、嬉しい半面、少し後ろめたい気持ちになります。

また、図書室に気もちのクールダウンにくる子ども達も何人かいます。その子ども達が図書室に来るのは司書の私がいる時だけのようです。両校に毎日行きたいと、はがゆい思いをしています。

いつか全国の学校に常勤の司書が配置されるといいなと願っています。　（本大すきおばさん）

富山市　７月４日に富山市教育委員会の教育長宛に質問書を提出し、７月２６日に回答を得ました。

質問①　学校司書配置のための交付税措置

「厳しい財政状況の中、学校図書館担当職員を配置する学校は近年一貫して増加、その必要性が強く認識されはじめている」として、小中学校に学校司書を配置のために約１５０億円が計上されています。来年度も計上された場合に、予算措置される計画はおありでしょうか、お考えをお聞かせください。

回答①　本市においては、学校図書館司書を地域図書館が併設されている小中学校を除く全校に配置しております。平成２４年度から学校図書館司書配置に関わる経費に対する地方交付税措置が行われることになりましたが、富山市においては、地方交付税措置の有無に関わらず、平成２５年度以降も学校図書館司書を配置する予定としております。

質問②　富山市総合計画について

前期基本計画（Ｈ１９～Ｈ２３）では、「学校図書館司書の配置や学校図書の充実により、読書活動の一層の推進を図ります」となっていたところが、後期基本計画（Ｈ２４～）では、「学校図書館司書の配置や学校図書の充実により、児童生徒が図書に親しむ機会の充実を図り、豊かな心や想像力、確かな知識などを育んでいきます」となっています。学校司書配置のどのような拡充施策をもって、発展的な内容が明記されたのでしょうか。その根拠となる具体的な施策を教えてください。

回答②　本市においては、平成１８年度から５３名の学校図書館司書を全小中学校に配置しております。ここ７年間の配置人数は５３名と変わりませんが、その間、岩瀬小学校、山田小・中学校、神通碧小・楡原中学校に地域図書館が併設され、常時、図書館司書を配置していることから、地域図書館が併設された小中学校に配置されていた学校図書館司書を他校へ振り分け、市全体としての配置日数を増やして参りました。

今後も各学校の児童生徒数などを勘案しながら、学校図書館司書の適切な配置に務め、学校図書館が有効に利用されるよう努めていきたいと考えております。

質問③　市町村合併時の取り決めについて

１市４町２村が合併して新富山市となった翌年の平成１８年、１校専任配置をお願いした要望書を貴教育委員会に、子どもの本に関わる６団体（富山図書館を考える会・富山おはなしの会・大山おはなしの会・八尾おはなしの会・大沢野読みがたりの会・おはなしミッケの会）が提出しております。

そのおり、「旧八尾町と旧婦中町からも、学校司書の１校専任配置を守ってもらいたいという要望を聞いているので良い方向に検討していきます」という回答を貴教育委員会からいただいております。にもかかわらず、６年を経ても、全校専任へと配置が進むことはありませんでした。全校専任までの今後の計画を具体的にお示し下さい。

回答③　平成２４年度は学校図書館司書５３名を（小学校６２校、中学校２４校）に配置し、そのうち、専任配置校は２０校（小学校１８校、中学校２校）となっております。

今後も各学校の児童生徒数などを勘案しながら、学校図書館司書の適切な配置に務め、学校図書館が有効に利用されるよう努めていきたいと考えております。

学校図書館を考える全国連絡会が緊急集会を開催されました

７月６日（金）付の讀賣新聞に「７月５日に開催された学校図書館活性化協議会の役員会で、明確な法的位置づけのない学校司書の法制化を急務とし、学校図書館法改正を早期に勧める方針を確認した」という趣旨の記事が掲載されました。そこで、８月５日に全国の学校図書館運動に関わっている者たちが参集する緊急集会が東京で開催されました。意見を交換し合って、市民が願う改正の形を探り、新たな運動の展開へとつなげることを目的としています。

全国連絡会世話人で、元専修大学教授（図書館学）の後藤暢先生が、これまでの学校司書に対する見方の変化を追いながら、拙速な法制化の懸念や可能性、これからの検討課題を詳細に分析してくださいました。その後の意見交換に入る前に、富山県図書館を考える会の江藤が、市民の立場で願う学校司書像と期待する配置の形を述べさせていただきました。

今後は、集会で提案された意見をもとに、要望をまとめて、学校図書館活性化協議会の構成団体や役員の方々に伝えていく活動が行われる予定です。富山と東京では、歯がゆいほどの距離を感じますが、重要な機会と捉え、富山を含めた全国の学校図書館の充実を実現するために、働きかけに努めていきたいと考えています。

富山県書店商業組合から要望書が出ました

富山県内の本屋さんが加盟されている富山県書店商業組合（理事長　丸田茂　氏）が、富山市長宛に「学校図書館の蔵書整備促進を求める要望書」を６月１２日に提出されました。「富山市内小中学校の学校図書館の蔵書整備・充実の継続的な実施」を趣旨とされ、「新学習指導要領における理念を尊重し、富山市の予算においても充分な図書予算確保を図っていただくことにより、市内小・中学校の学校図書館の蔵書充実を継続的に実施していくことを請願いたします。」と要望がされています。

今年度から学校図書館図書整備費、年２００億円が予算化されていますので、いろいろな立場の方が交付税の積極的活用を促す働きかけをしてくださることは、何よりの喜びです。

再チャレンジ！時雨沢恵一氏講演会開催

２００９年度に富山市の中学校と高校で共通して、もっとも読まれた作品は電撃文庫の「キノの旅」でした。それを聞いた作者の時雨沢恵一氏が富山の中高生に会いたいと言ってくださり、講演会が開催される予定でした。それは２０１１年３月１９日、東北の大震災が起こったばかりで先の見通しがつかず、残念ながら中止となりました。

けれでも、その時いただいたご縁は切れてはいませんでした。来年の３月２日（土）に「サンシップとやま」で、講演会が開催できることになりました。

チラシ案を同封しました。まだ時間はありますが、ぜひ予定を空けておいてください。